

別表3

採用場所	中央水産研究所 海洋・生態系研究センター モニタリンググループ 神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4
研究課題名	<p>「日本周辺域の水産業に影響を及ぼす海洋変化現象の解明とそのモニタリング・予測精度の向上に関する研究開発」</p> <p>1) 環境ゲノム情報等を用いた黒潮の生物生産特性の動態と水産資源への影響予測 2) 環境ゲノム情報等を用いた外洋-沿岸生態系構造と沿岸水産資源動態の把握 3) 海洋のモニタリング・予測精度向上に関する研究・技術開発と適用</p>
研究業務内容	<p>新水産基本計画により明示された持続的な水産資源管理を目指すため、当機構は海洋における生物生産の仕組みをより科学的に正確に把握することが期待されている。このため、海洋モニタリングにより得られた遺伝子データを解析し速やかに海洋生態系や生産構造研究を行える体制を整えることが急務である。</p> <p>本研究では、当機構が長年にわたり継続的に行っている海洋モニタリング調査インフラを利用し、日本周辺の水産業に影響を及ぼす海洋変化現象の解明と、そのモニタリング及び予測精度の向上を目的とし、以下の研究開発を行う。</p> <p>①重要海域である黒潮周辺海域で海洋調査を行うとともに環境ゲノム情報を収集し、海域や季節などによる海域の生物生産特性の動態を把握することによって、海洋変化現象が水産重要種へ与える影響を予測する。</p> <p>②近年の水産業で重要な海域になっている沿岸域では赤潮、貧酸素、陸起源と海起源の栄養供給のバランスなど複雑な生物生産の仕組みが存在しておりそれに伴い水産資源の消長も顕著にみられるが、これらの仕組みの解明にも有効と考えられる海洋学にゲノム研究を組み合わせた研究を行う。</p> <p>③これらの研究をもとに、ゲノム情報をこれまでの海洋調査情報に組み入れるパイオニア的研究として、海洋モニタリング研究及び予測技術の高度化に向けた研究開発を行う。</p>
研究業務内容に関する問合せ先	中央水産研究所 業務推進部長 野上欣也 TEL:045-788-7601